

タイトル	通過型観光地から滞在型観光地への転換 ——伊勢神宮及びその周辺地域において——		
所属	張ゼミ	氏名	山村早稀

研究テーマのキーワード

- ・ 通過型観光地
- ・ 滞在型観光地
- ・ 日本全国からの観光客
- ・ 外国人観光客

背景・目的

伊勢神宮は日本各地のみならず、世界からも参拝者が訪れる。

令和元年の伊勢神宮参拝者数は9,729,616人、外国人は96,287人である。(令和二年は4,117,459人、18,693人である。資料：神宮司庁)

過疎化が進むと通過型観光地から滞在型観光地の導入を進めていく地域は少なくない。

これからも日本全国からの観光客や外国人観光客が伊勢周辺地域を訪れ、以前より活気にあふれた観光地となるために研究を行う。

問題点

伊勢神宮を含む伊勢周辺地域の観光は、日本一滞在時間の短い観光地と呼ばれていた。

そのため、経済効果が見込めないことが問題点であると考えられる。そこで、滞在時間を長くし、地域への経済効果を高めるためにできることを考えていく。

調査方法・手順

- ・ 論文や書籍から学ぶ。
- ・ インターネットから観光の状態を知る。
(三重県観光連盟公式サイト、伊勢志摩観光コンベンション機構公式サイト、伊勢市観光協会など)

なぜ人々は伊勢神宮に参拝をしに来るのか。

通過型観光地と滞在型観光地の違いは何か。

観光地と周辺地域の関わり方はどうなっていくのか。

通過型観光地

➡地域内での消費機会が少ないため経済効果が得られにくい。(観光バスツアーなど留まらず観光地を転々と巡ることを指す。)

滞在型観光地

➡宿泊、食事、体験などをその地域で行うことで、経済効果を得られる。(地域に留まり、体験などのレジャーを含んだ観光のことを指す。)

